

地方採用の 契約アナウンサー



古瀬^アはのちにフリーに転身した



沖縄放送局の竹中^アの通勤風景

NHKと民放との違い…それは「覚悟」と「職場結婚」である

世の中の変化をつかむのはどこでもできる。
それをサービスに反映させてこそ「価値」になる。

「NHKと民放の女子アナの違いですか？それは『覚悟』の違いです」

メディア文化に詳しい法政大学社会学部
の稲増龍夫教授はこう断言する。

「NHKは入局するとすぐ地方局に赴任させられます。いずれは東京に戻ってこられますが、例外はありません。地方局では取材、企画出し、原稿書きまでやらされ徹底的に鍛えられます。NHKのアナウンサーになるということは、地方に行って苦労をするという『覚悟』が必要なんです。ここが民放との大きな違いです」(稲増教授)

小郷知子^アも、かつて「巨乳」のイメージのインタビューでこう語っている。

「九州へ行くのが生まれて初めてだったんです。ずっと実家(東京)でしたし。一人暮らしも初めて。友達もいないし最初はつらかったです。『なんで私はここにいるの?』と思って、しばらくは部屋に帰ると、わけもなく涙があふれることがありました」

余談ながら、NHKの女子アナが地方局時代の同僚と職場結婚するケースが多いのも、「取材現場も一緒、食事も一緒、放送も

一緒だから自然と愛情が芽生えてしまう」(ヘテロ記者)からだという。

いずれにしてもこれはNHKの綿々たる伝統であり変わることはないだろう。その苦労を承知のうえで、「毎年2〜3人のアナウンサー採用枠に1千人以上の応募がある」(NHK職員)のである。しかし、各民放キー局の応募者がおおよそ6千人といわれるから、やはり「覚悟」のハードルは学生にとって高いようである。

そんなこともあり、NHKの女子アナは「安心して見ていられるけど面白くない」といわれてきた。ときには「官僚的」と表現されたこともあった。しかし、ある女子アナの出現でそのイメージが大きく変わったことになる。「クボジュン」の愛称で親しまれた久保純子^アである。

「彼女のキャラクターは民放的でしたね。間違っても許されちゃうところなんか(笑)。このころからNHKは女子アナの親しみやすさや、タレント性を重視するようになりまし」と稲増教授は指摘する。

また、意外に知られていないがNHKの



クボジュンの出現がNHKアナのイメージを変えたと専門家は指摘する

女子アナは「全国採用」のほかに、「地方採用」という制度がある。地方局が独自の判断でアナウンサーを採用するのである。

「3年契約で再契約もできます。その場合はほかの地方局に移らなくてはなりません」(稲増教授)。巨乳ぶりからスキャップアナとして注目された古瀬^アは山形放送局、同じく巨乳の竹中^アは沖縄放送局で採用されている。ちなみに、NHKの元経理関係職員は「給料は恐らく時給1千円くらいでしょう」と明かす。

以前では考えられない「スプリング」や「温泉入浴」などにも挑戦するようになったNHK女子アナ。今や民放より俄然注目度が高くなっているのである。



写真・本誌写真部 ※記事の一部敬称略



三井住友銀行

LEAD THE VALUE

三井住友フィナンシャルグループ